

## 自閉症スペクトラム 学生へのサポートから見えてきたこと

33

### 支援に先立ち本人が抱えている状況の例

- 過去の「実習」での失敗
- 外傷体験があり不安感や恐怖心が強い
- 対処法がわからずパニックになる

34

## 実習(実験・臨床)での困難さ

- 指導者の口頭での指示・説明だけではうまく理解できない。
- 実習の目的と、それを達成するためにどのような手順で行うかを見通すことができない。
- 指導されたことを素直に聞くことができず、持論を主張してしまう。
- 想定外のことが起きたときに、臨機応変に対処できず、パニックになる。
- 少人数のグループで、適度に言葉をはさみつつ協力しながら作業することが苦手である。

35

## 発達障害傾向にある学生支援の方向性

### 1. 困難さに焦点を当てた支援

直面する課題(困難な状況)



自分の願いを話す  
対処方法を一緒に考える  
成功体験を積み上げる

### 2. 心理教育的サポート

振り返り  
自己表現・自己理解  
自己決定  
自己権利擁護スキル(Self-advocacy)  
対人関係スキル



36

## 本人参加のサポート計画立案・実行・振り返り ー心理教育的サポートの手順ー

支援を受ける学生をサポートチームの中心に据えること  
によって、サポートそのものが自己理解を促進する

- 自分の困難さを分析する → 自己分析
- 対処法を支援者と一緒に考える → 計画を立てる
- 実際に試してみる → 実行する
- 支援者と一緒に振り返りを行う → 自己分析
- 特性にあった対処方法を見つける → 自己理解
- 成功体験を積み上げる → 自尊感情を高める
- 自分の特性を他者に説明できる → 自己表現
- 適切な自己主張を行い、  
不利にならない環境を作っていく → 自己権利擁護スキルの獲得

37

## 発達障害学生Bさん(理系)支援例 (診断:ADHD→高機能ASD) ー指導教員、保健管理センターとの連携ー

- **困難さに焦点を当てた支援**
  - ー 課題:体調や気分の波があって授業や実習に出られない。
  - ー 願い:自己コントロールしながら授業や実習に臨みたい。
  - ー 方法:スケジュールを調整しながら気分の揺れを最小限に
- **心理教育的サポート**
  - ー 振り返り:体調や気分の不調がどのようなときに起きるか振り返り、状況を客観的に把握する。
  - ー 自己表現:自分の体調と気持ちのずれを言葉に表す。
  - ー 自己決定:スケジュールを調整しながら取舍選択する。
  - ー 自己権利擁護スキル(Self-advocacy):自分の体調や気分の不調を適切な表現で伝える。

38

## 支援者の心構え(就職活動支援を例に)

### □ 困難さに焦点を当てた支援: 支援者も考える!

- ✓ 本人のペースに合わせる: 大抵は非常にゆっくり
- ✓ 一緒に集中的に作業に向き合う: 2~3時間/1面談あたり  
→履歴書をどのように書くか一緒に考える。履歴書添削は最後の作業工程  
自己PRと志望動機の表出は本人にとって非常に難しい作業  
→目の前で会社やハローワークに電話してもらい、就活を進めていく。
- ✓ 面接のシミュレーションと面接後の振り返りをする。

### □ 心理教育的サポート: 本人の特性への肯定的関心

- ✓ 本人の自己否定感をまず受容する。
- ✓ 本人の持論をなるべく感情的に受け止めず、論理的に理解し(楽しみ)、その上で一般常識との「ずれ」を論理的に説明する。
- ✓ 本人が心地よく感じる内的世界を尊重し、それが維持できる方法の1つの選択肢として就職を考えてもらう。  
→「仕事で自己実現を図るのか?それとも趣味に生きるために必要なお金を得るのか?は、人それぞれである。」等の語りの場を作る。

39

## 実際の支援を通じて合理的配慮を探る

- 発達障害は、困難さに個人差が大きく、必要な配慮も異なり定型化できない。
- さらに、状況によっても必要な配慮が異なるため、本人、支援者、本人とかかわる人(=広い意味での支援者)の間での合意形成が不可欠である。



**本人を含めた**サポートチームを作り、  
状況に応じて本人と支援者双方が  
納得できる配慮をその都度探求する。

40

## 合理的配慮の最初の一步

- 否定的な言葉を言わない  
○○してはいけません×  
→◎◎しましょう○
- 正確な言語表現を心がける  
→× 比喩・仄めかし
- 視覚情報(配付資料・授業の流れの説明)を十分に！
- 居場所を作る: 感覚過敏や情報過多で疲労した心身を休める  
→×「やる気ないの？」
- 周囲の出来事や人との関係についてわからなくて混乱することのないように、その場の状況を通訳して、他の学生と同じ情報が正しく届くようにする。